

2017/10/21-23

第6回観測的宇宙論ワークショップ

@弘前大学

Approaching and going beyond the shell crossing of structure formation with perturbation theory

樽家 篤史

(京都大学 基礎物理学研究所)

Stéphane Colombi (IAP)

嵯峨承平 (京大基研)

内容

大規模構造の摂動論とその問題

1 次元宇宙での考察

3 次元への拡張に向けた課題

まとめ

宇宙大規模構造と宇宙論

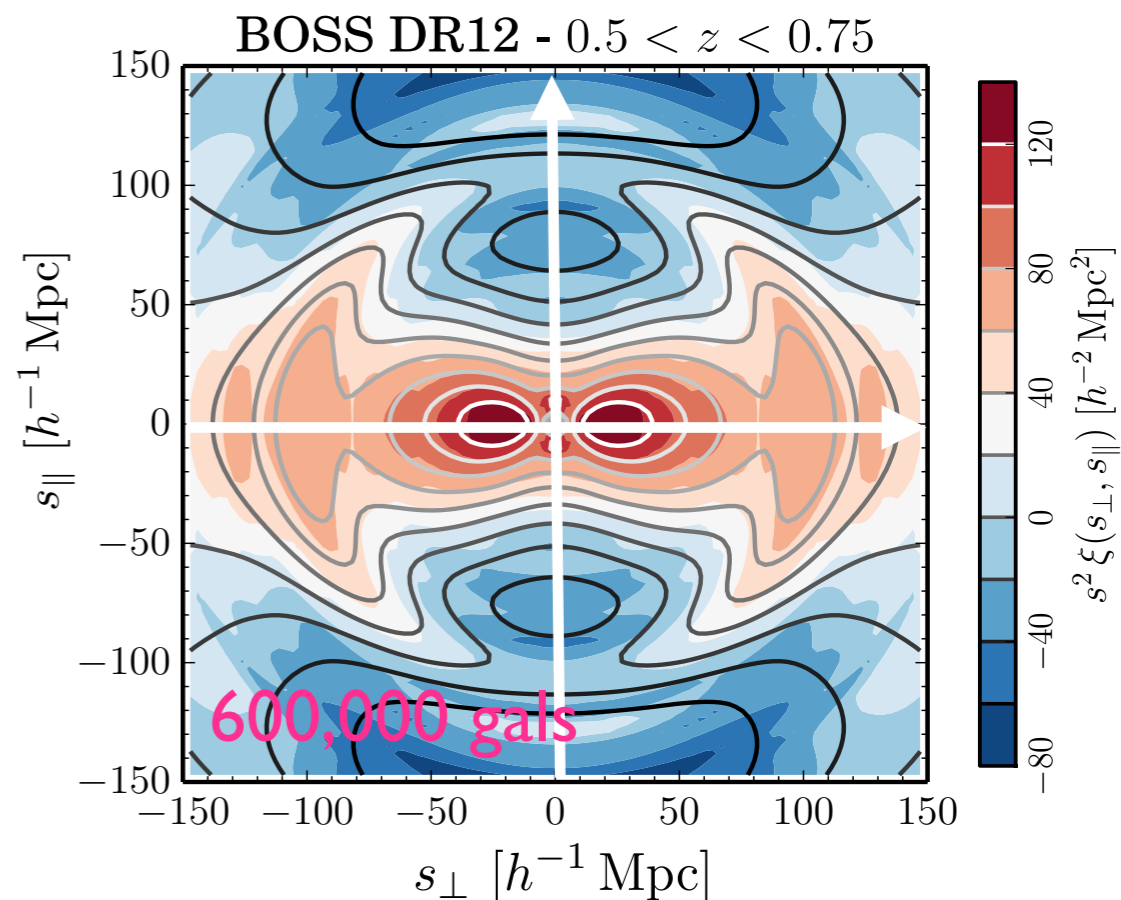
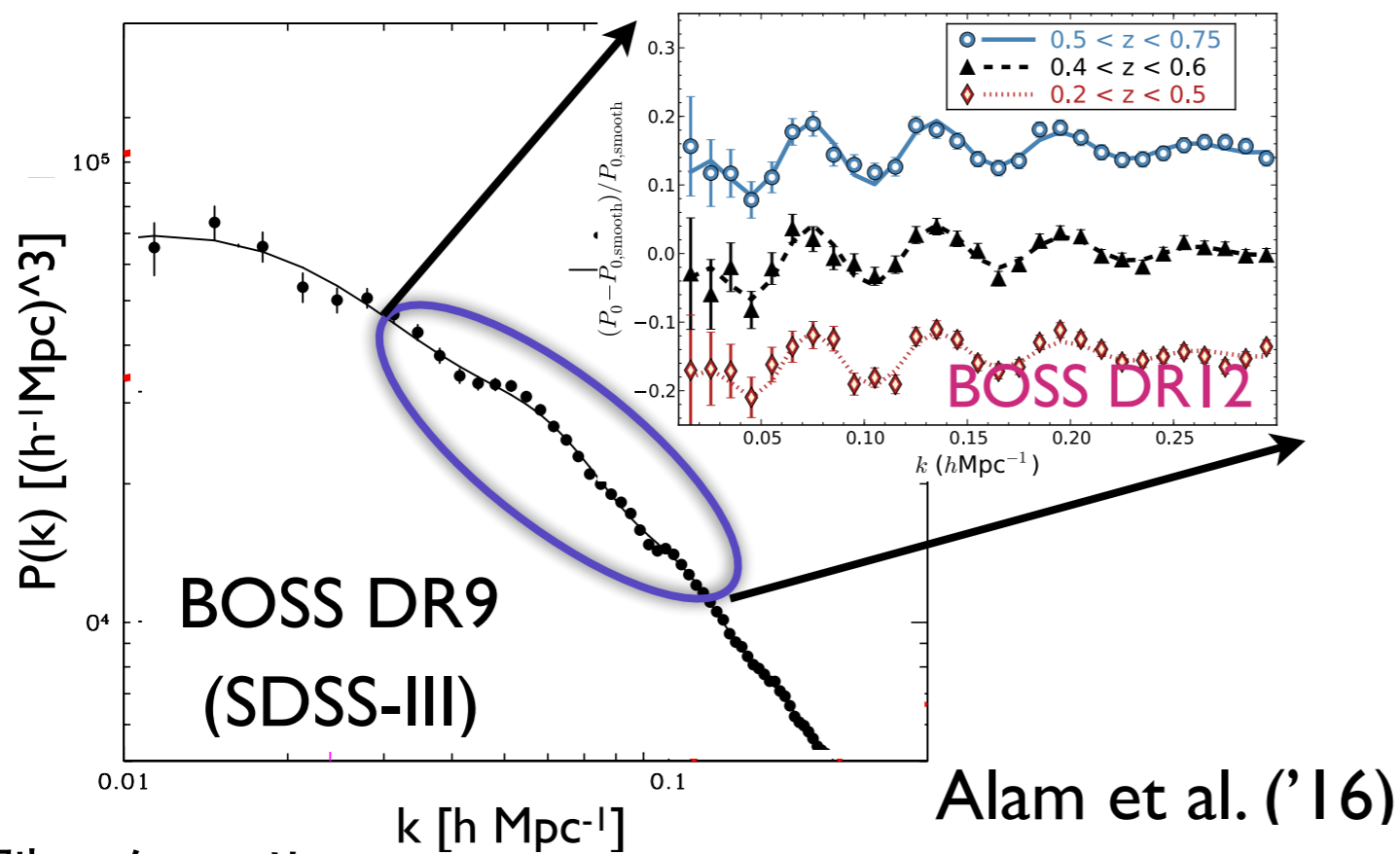
銀河サーベイの重要ターゲット：

- バリオン音響振動
- 赤方偏移ゆがみ
- フリーストリーム減衰

加速膨張の診断

重力のテスト

ニュートリノ質量和



観測スケール

$k < 0.2 - 0.3 \text{ h/Mpc} @ z \sim 0 - 2$ (重力進化の線形～弱非線形領域)

摂動論による大規模構造の記述

精密観測データと比較する理論テンプレートとして、

摂動論による解析的計算手法が威力を発揮

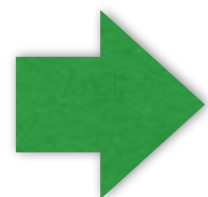
大規模構造の非線形重力進化

+ 赤方偏移空間ゆがみ・銀河バイアスの非線形性

最近

- くりこみや高次摂動計算などのテクニックの発展
- 高速計算可能なパブリックコード

(Crocce & Scoccimarro '08, AT & Hiramatsu '08, Matsubara '08, AT et al. '12, ...)



宇宙論データ解析に応用

(WiggleZ, SDSS BOSS, ...)

大規模構造の摂動論

弱重力 → ニュートン重力 & ゆらぎの波長 \ll ハッブル半径

冷たい暗黒物質(CDM) + バリオン \approx 圧力ゼロの渦なし流体

質量密度場

速度場

$$\frac{\partial \delta_m}{\partial t} + \frac{1}{a} \nabla \cdot [(1 + \delta_m) \mathbf{v}] = 0,$$

$$\frac{\partial \mathbf{v}}{\partial t} + \frac{1}{a} (\mathbf{v} \cdot \nabla) \mathbf{v} = -\frac{1}{a} \frac{\partial \Psi}{\partial \mathbf{x}},$$

$$\frac{1}{a^2} \nabla^2 \Psi = 4\pi G \rho_m \delta_m.$$

ニュートンポテンシャル

Juszkiewicz ('81), Vishniac ('83), Goroff et al. ('86), Suto & Sasaki ('91), Makino, Sasaki & Suto ('92), Jain & Bertschinger ('94), ...

標準摂動論

$$|\delta| \ll 1$$

$$\delta = \delta^{(1)} + \delta^{(2)} + \delta^{(3)} + \dots$$

パワースペクトル

$$\langle \delta(\mathbf{k}; t) \delta(\mathbf{k}'; t) \rangle = (2\pi)^3 \delta_D(\mathbf{k} + \mathbf{k}') P(|\mathbf{k}|; t)$$

無衝突自己重力多体系

より基本的な記述：

CDM + バリオン = 無衝突粒子からなる自己重力多体系

無衝突ボルツマン方程式
(ヴラソフ方程式)

$$\left[\frac{\partial}{\partial t} + \frac{\mathbf{p}}{ma^2} \frac{\partial}{\partial \mathbf{x}} - m \frac{\partial \Psi}{\partial \mathbf{x}} \frac{\partial}{\partial \mathbf{p}} \right] f(\mathbf{x}, \mathbf{p}) = 0,$$

分布関数

ポアソン方程式

$$\nabla^2 \Psi(\mathbf{x}) = 4\pi G a^2 \left[\frac{m}{a^3} \int d^3 \mathbf{p} f(\mathbf{x}, \mathbf{p}) - \rho_m \right]$$

初期設定
(シングルストリーム)

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{p}) = \bar{n} a^3 \{1 + \delta_m(\mathbf{x})\} \delta_D[\mathbf{p} - m a \mathbf{v}(\mathbf{x})]$$

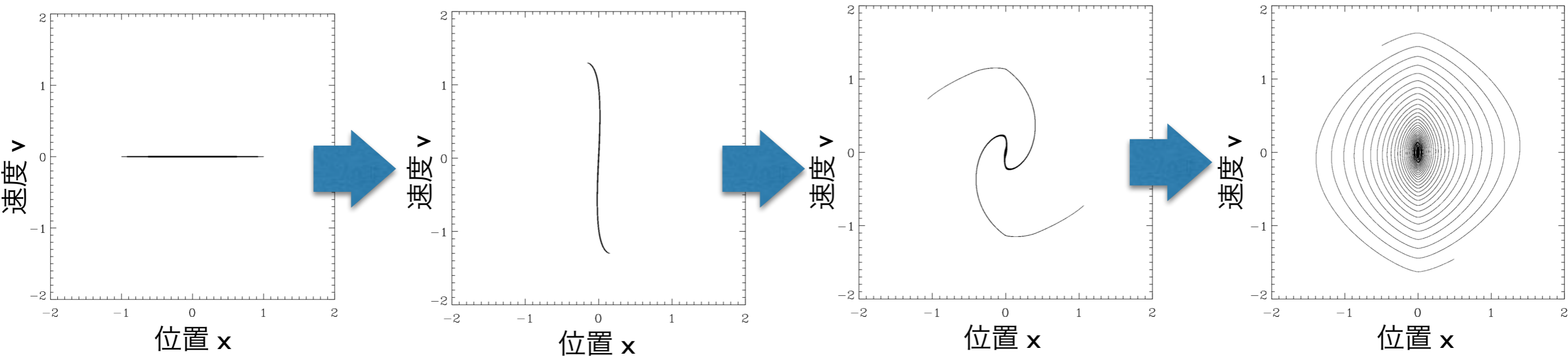
デルタ関数

質量密度場 速度場

シングルストリームの仮定では圧力ゼロの流体系に帰着
ただし、この仮定はいずれ破れる (→ 摂動計算の破綻)

一次元重力系での例

1次元重力系の時間発展 (宇宙膨張なし)



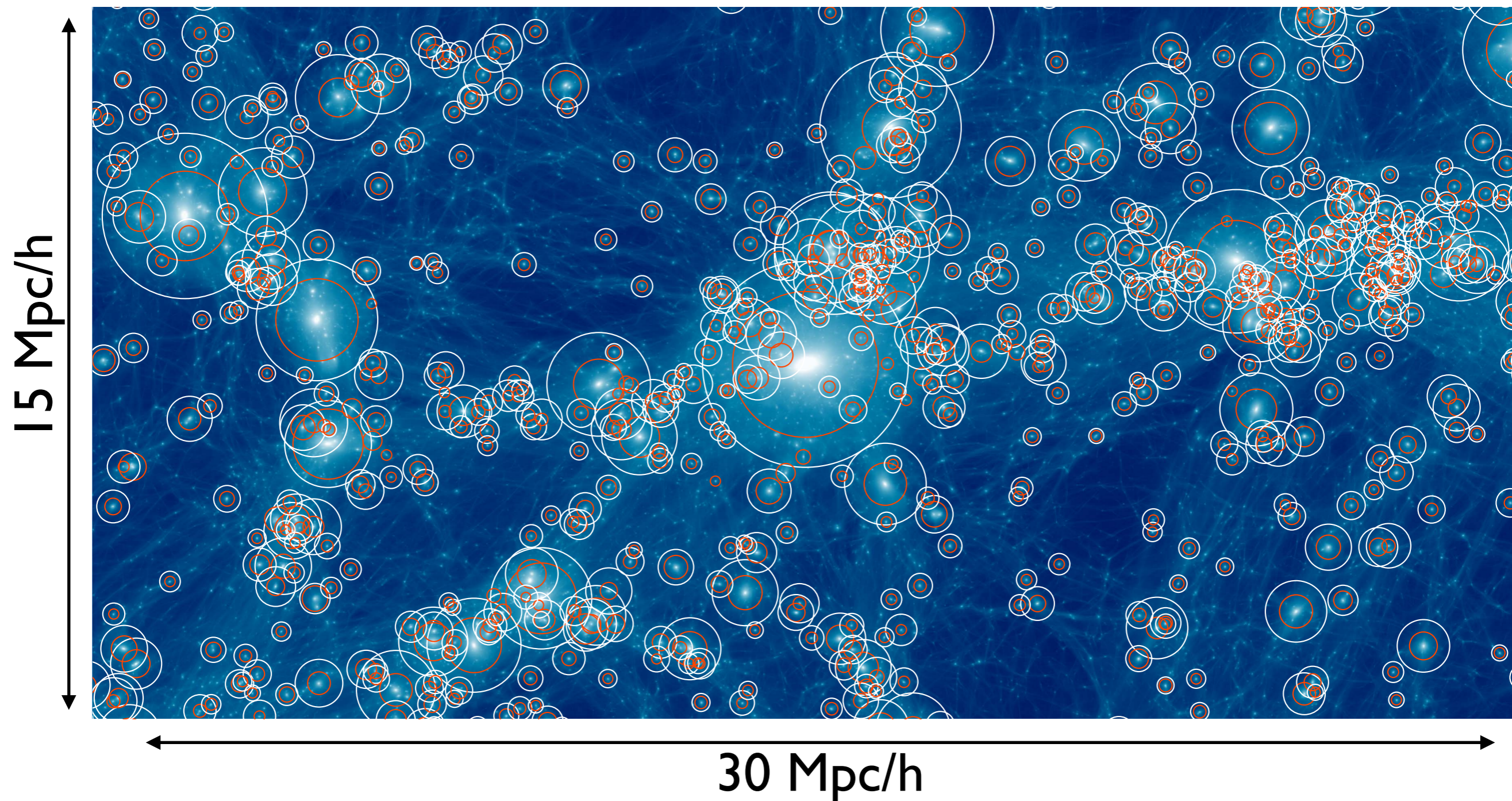
初期条件 シェルクロッシングの形成 マルチストリーム領域の発達 ハローの形成

→
シングルストリームとして扱えるのはここまで

宇宙論的状況だとハロー外部にシングルストリーム領域が広がる

スプラッシュシュバック半径

= シングルストリームとマルチストリームの境界 (白いマル)

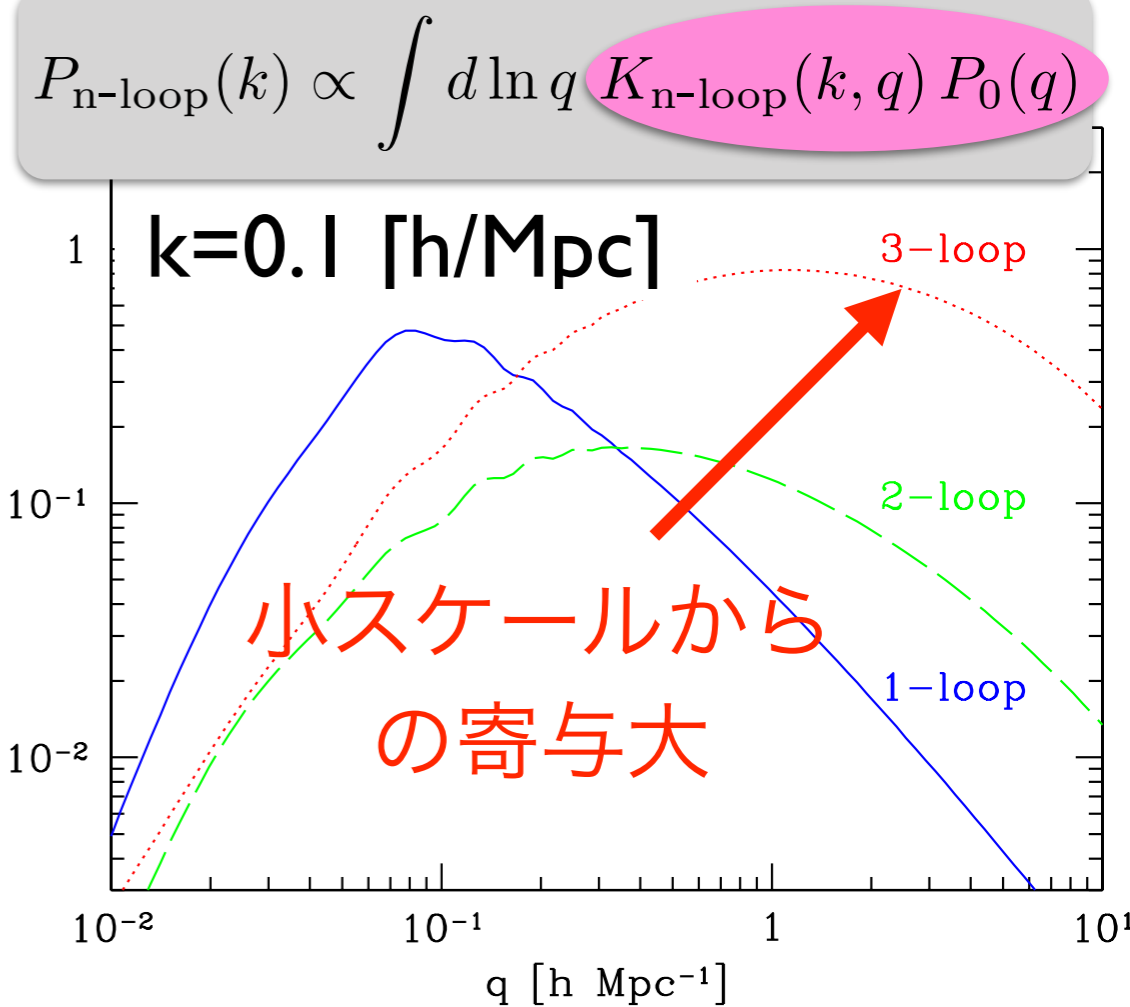
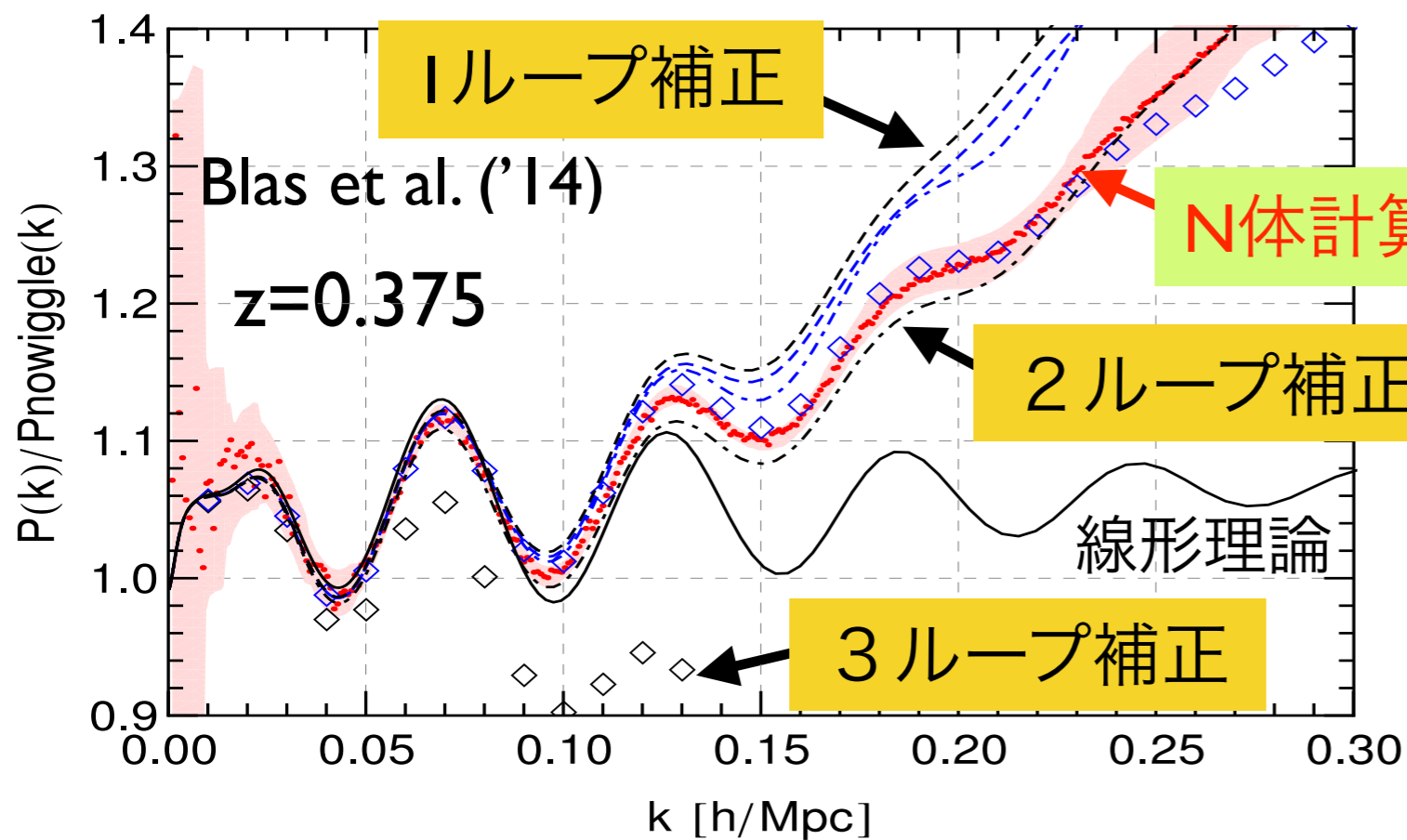


Diemer et al. ('17)

摂動論の UV 問題

ハロー形成が起こる小スケールに目をつぶれば

シングルストリーム近似にもとづく摂動計算は問題ない？



高次計算すると大スケールのゆらぎが小スケールと強くカップリング → 摂動論が破綻

Bernardeau, AT & Nishimichi ('14)

大規模構造の応答関数

Nishimichi, Bernardea & AT ('16,'17)

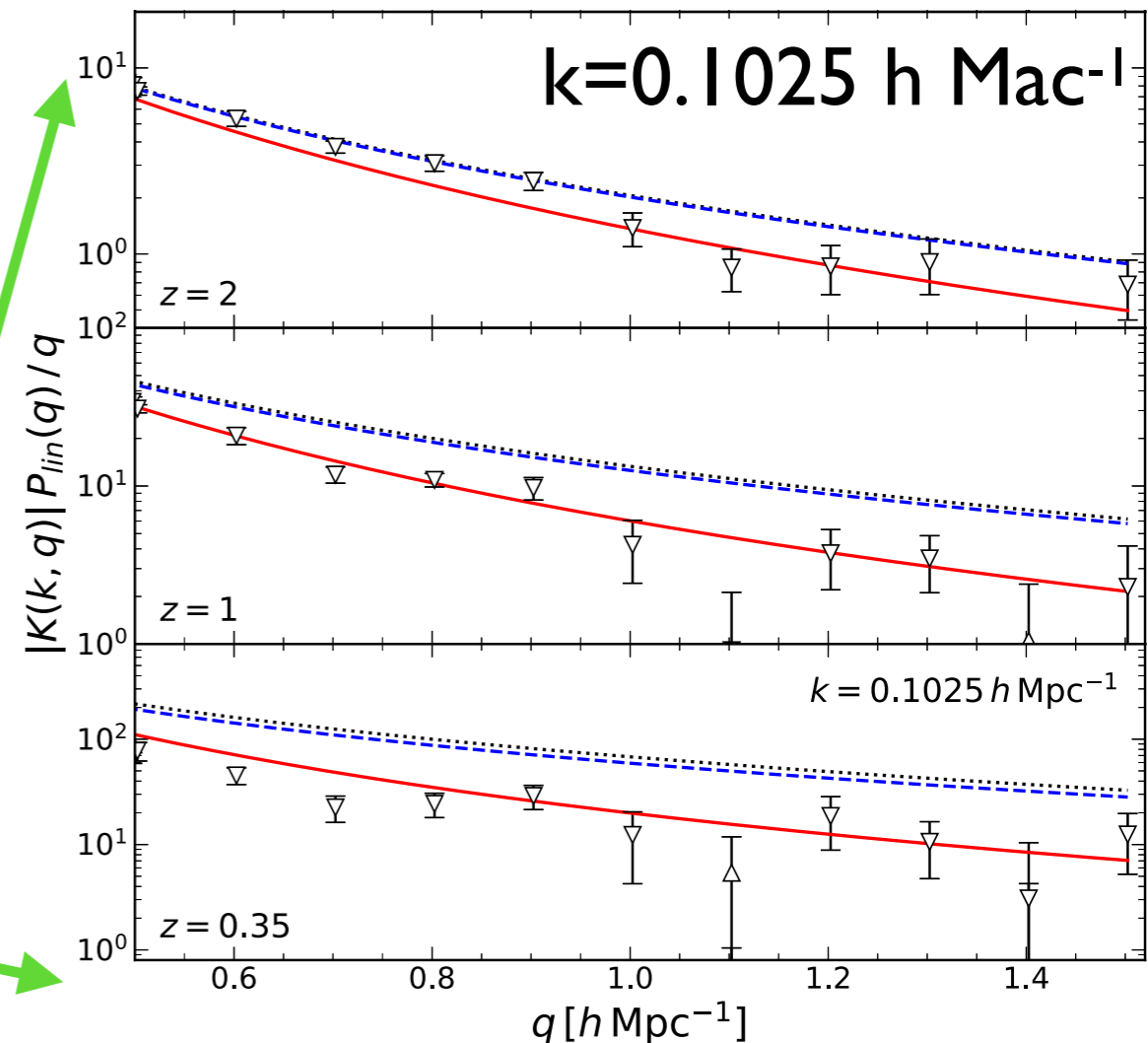
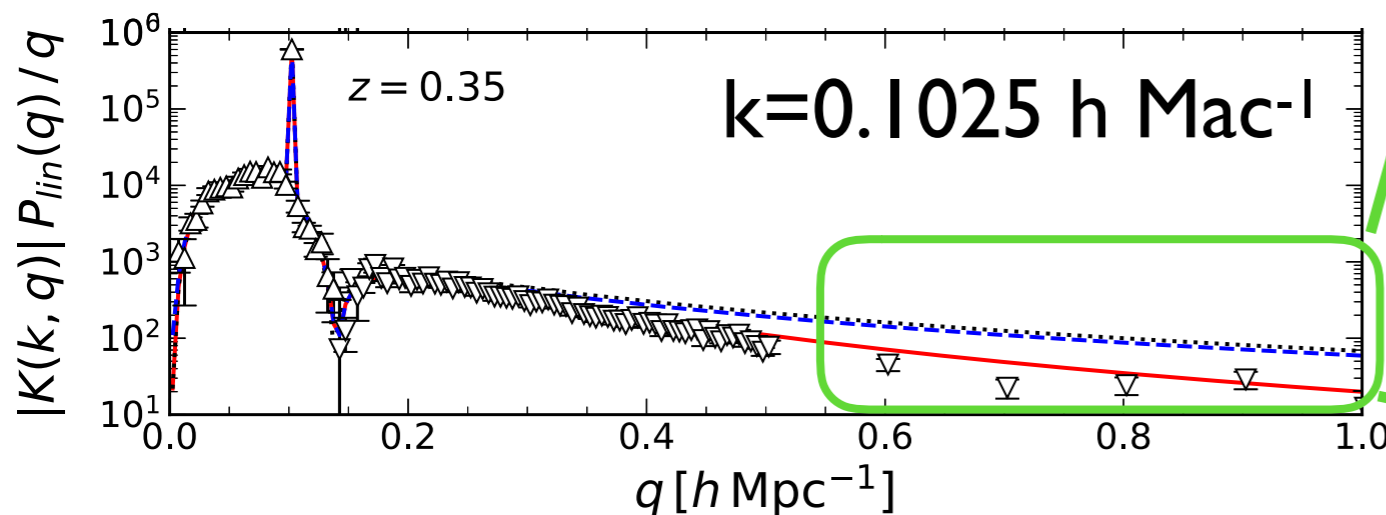
N体シミュレーションでは、

大スケールに対する小スケールの影響は抑制されている

$$\text{出力 (非線形)} \quad \delta P_{\text{nl}}(k) = \int d \ln q \, K(k, q) \delta P_0(q) \quad \text{入力 (線形)}$$

応答関数 $K(k, q; z) = q \frac{\delta P^{\text{nl}}(k; z)}{\delta P^{\text{lin}}(q; z)}$

- SPT 2-loop
- RegPT 2-loop
- 減衰項入りモデル



摂動論のトラブル：小まとめ

従来の摂動論にひそむ問題点

シングルストリームの破れ → 高次の摂動計算が破綻
(大スケールでも破綻)

対処方法

✓ 高次の計算をしない

適用範囲が限定される

✓ 有効場理論のアプローチ

Baumann et al. ('12)

Carrasco, Herzberg & Senatore ('12), ...

圧力ゼロ流体からのずれを表す 有効ストレステンソル を導入

N 対シミュレーションで校正

理論の予言性が失われる

動機

シングルストリームを超える取り扱いは摂動計算で可能か？

計算精度や適用範囲は従来の方法に比べて改善するか？

1次元宇宙での考察

AT & Colombi ('17)

ポストコラプス摂動論

ラグランジェ描像にもとづく新しい摂動論

適応フィルタリング

マルチストリームの影響を低減

両者の組み合わせで小スケールまでシミュレーションを再現

ゼルドビッチ解

(Zel'dovich '70)

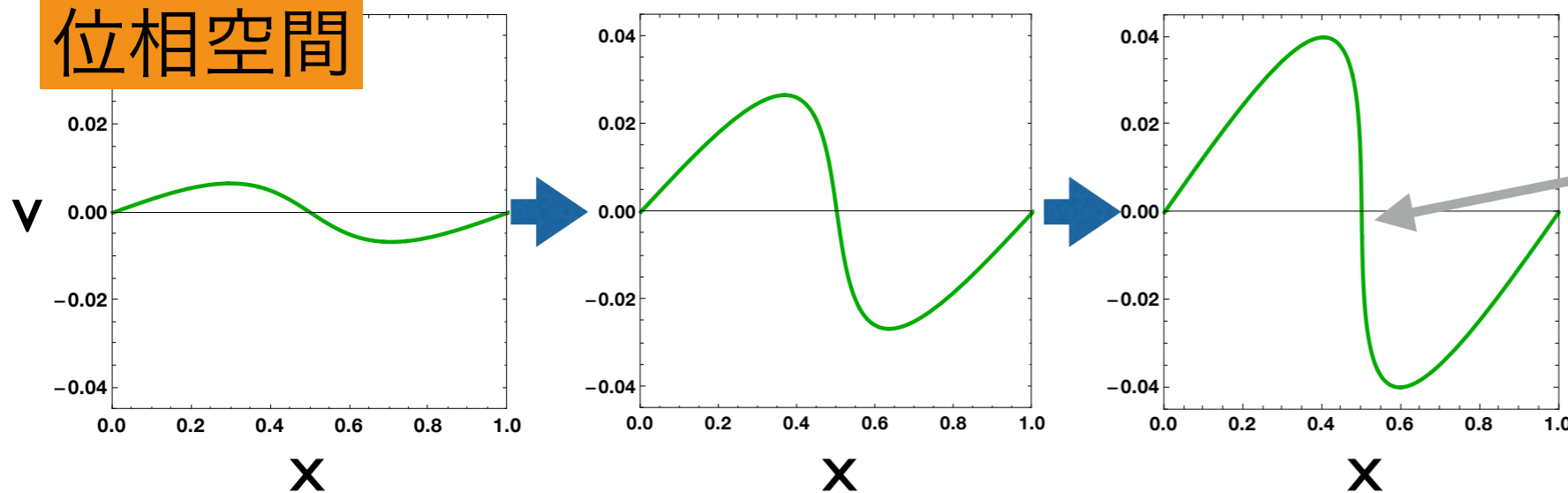
シングルストリーム
の厳密解

$$x(q; \tau) = q + \psi(q) D_+(\tau)$$

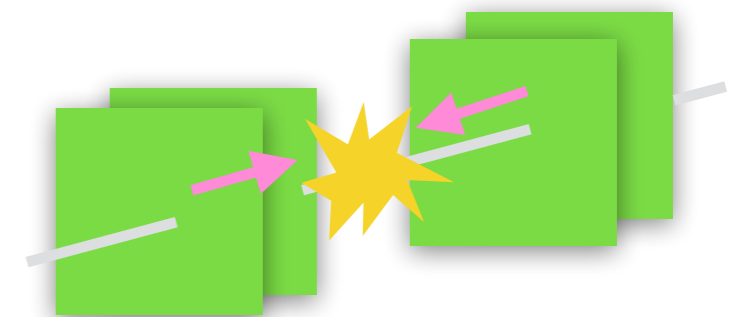
$$v(q; \tau) = \psi(q) \frac{dD_+(\tau)}{d\tau}$$

$D_+(\tau)$: 線形成長因子
 $\psi(q)$: 変移場

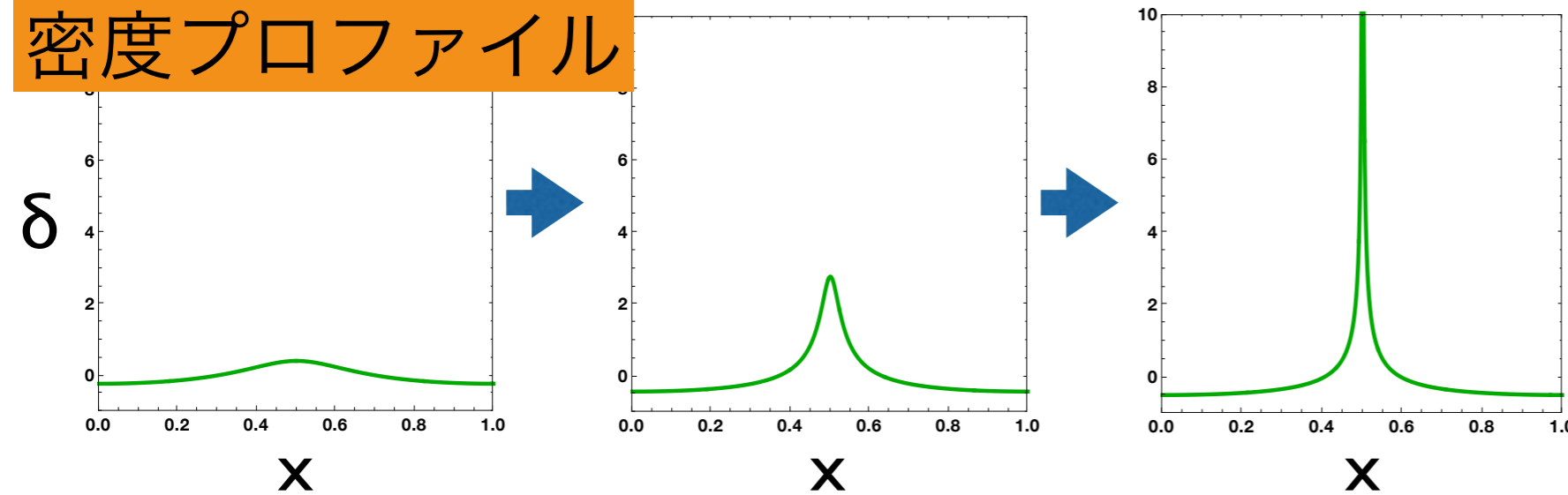
位相空間



シェルクロッシング

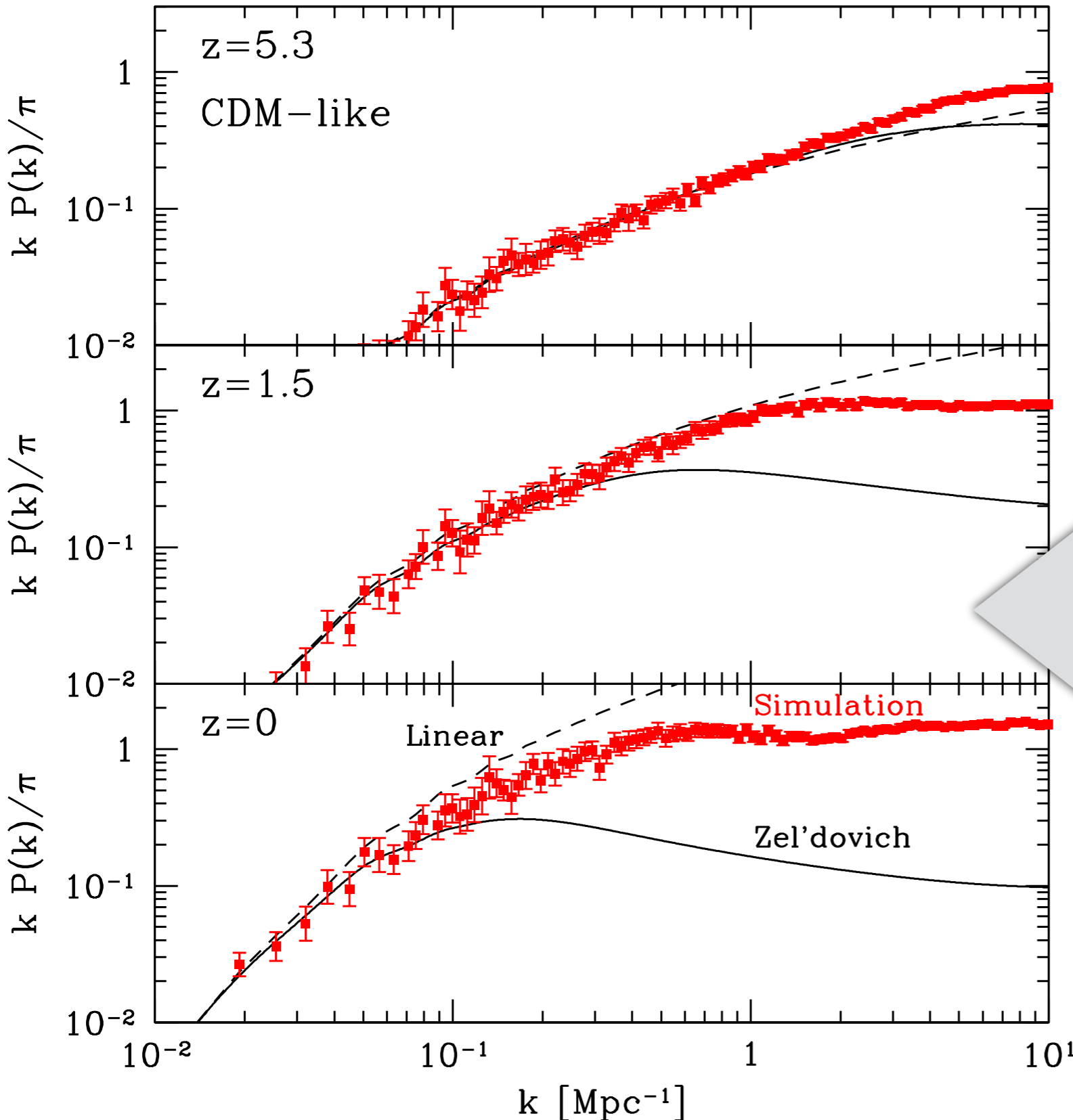


密度プロファイル



シェルクロッシング
まで厳密解

シミュレーション vs ゼルドビッチ



初期条件 Planck Λ CDM
 $P_{1D}(k) = \frac{k^2}{2\pi} P_{3D}(k)$

無次元パワースペクトル
 は3次元と同じ

シングルストリーム近似の限界がクリアに

$L = 1,000$ Mpc
 # of particles (sheets) : 200,000
 # of runs : 50

パブリックコード : v1afroid

<http://www.vlasix.org/uploads/Main/froidID.1.5.tar.gz>

ポストコラプス擾動論

AT & Colombi ('17)

ゼルドビッチ解をもとに、シェルクロッシング後の
マルチストリーム領域を扱う新しい擾動計算手法

計算の概要

変移場

ゼルドビッチ解 $x_{\text{Zel}}(q; \tau) = q + \psi(q; \tau)$ q : ラグランジュ座標

$\psi(q; \tau) = A(q_0; t) + B(q_0; \tau)(q - q_0) + C(q_0; \tau)(q - q_0)^3 + \dots$ シェルクロッシング
周りでテイラー展開

1. マルチストリーム領域の「力」を計算: $F(x(q; \tau)) = -\nabla_x \Phi(x(q; \tau))$
2. 「力」を積分してゼルドビッチ解に対する反作用を求める:

$$\Delta v(Q; \tau, \tau_q) = \int_{\tau_q}^{\tau} d\tau' F(x(Q, \tau')), \quad \Delta x(Q; \tau, \tau_q) = \int_{\tau_q}^{\tau} d\tau' \Delta v(Q; \tau', \tau_q)$$

..... ラグランジュ座標 $Q=q-q_0$ の7次の多項式

ポストコラプス摂動：孤立ハロー

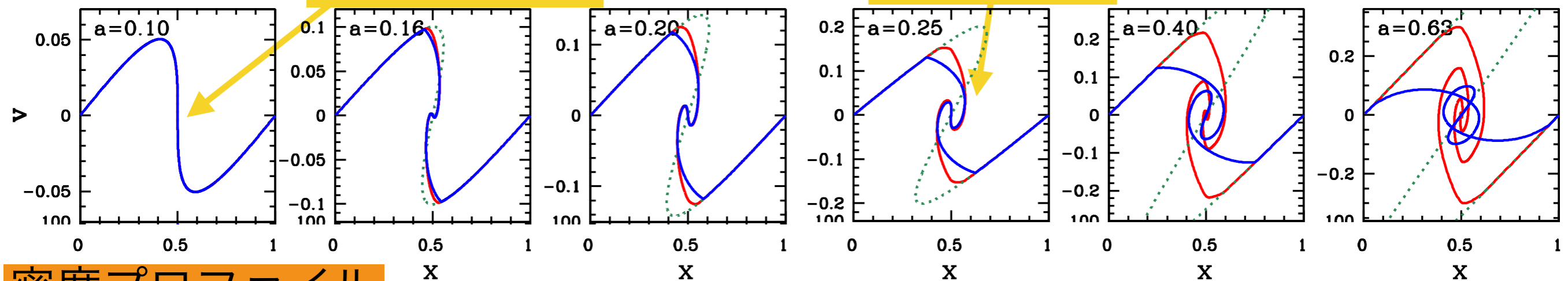
AT & Colombi ('17)

位相空間

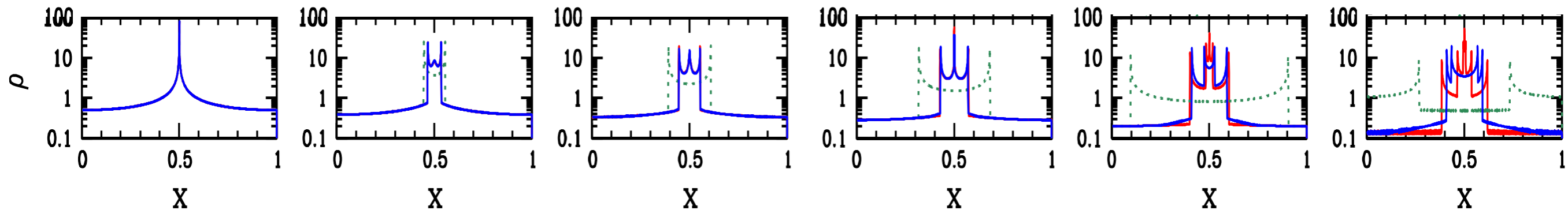
最初のシェル
クロッシング

2度目のク
ロッシング

シミュレーション
ゼルドビッチ
ポストコラプス摂動



密度プロファイル



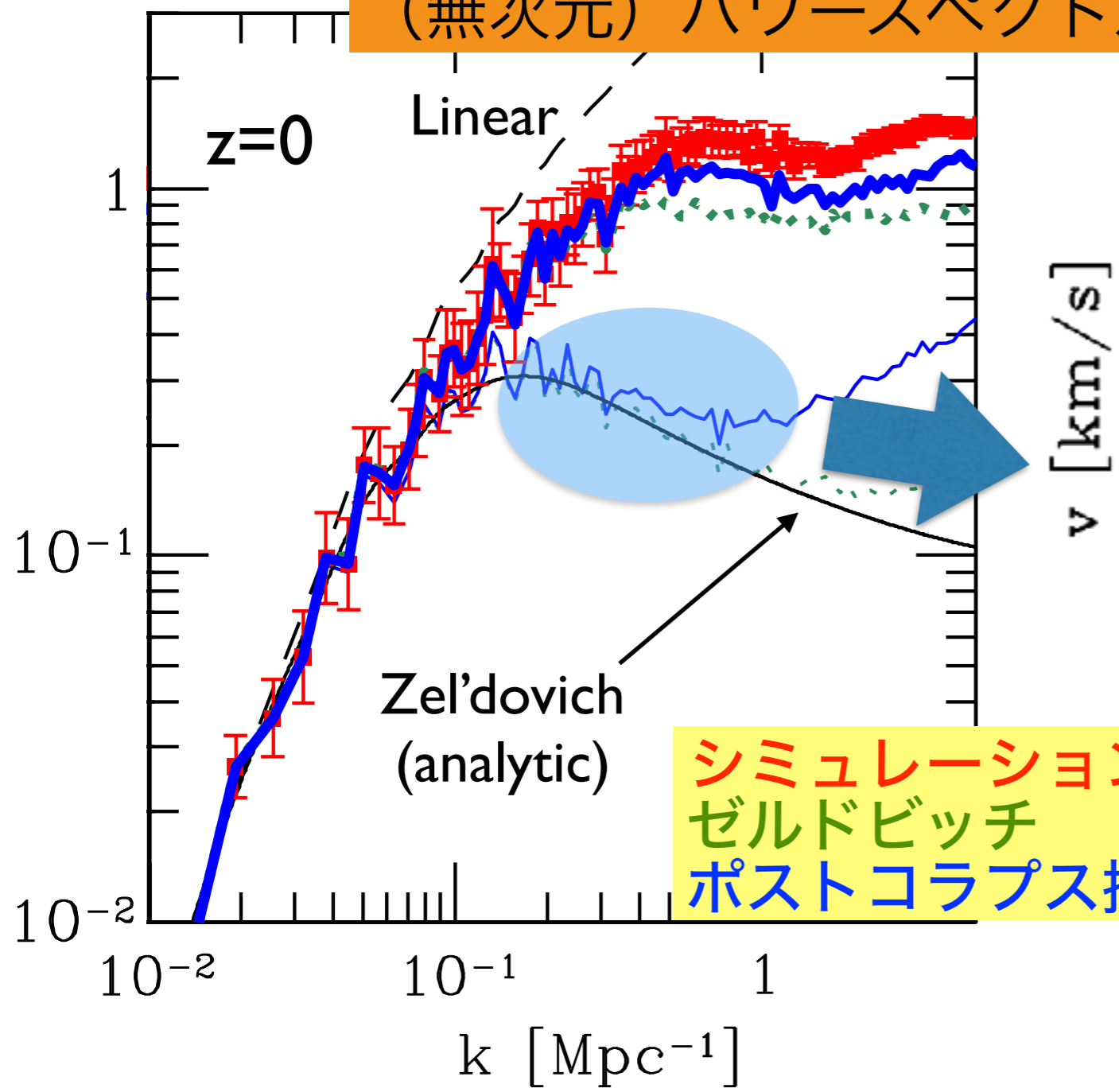
2度目のクロッシング後の近似は悪くなるものの、密度プロファイルの形状はシミュレーションをそれなりに再現

ポストコラプス擾動：CDM的初期条件

AT & Colombi ('17)

$k P(k) / \pi$

(無次元) パワースペクトル

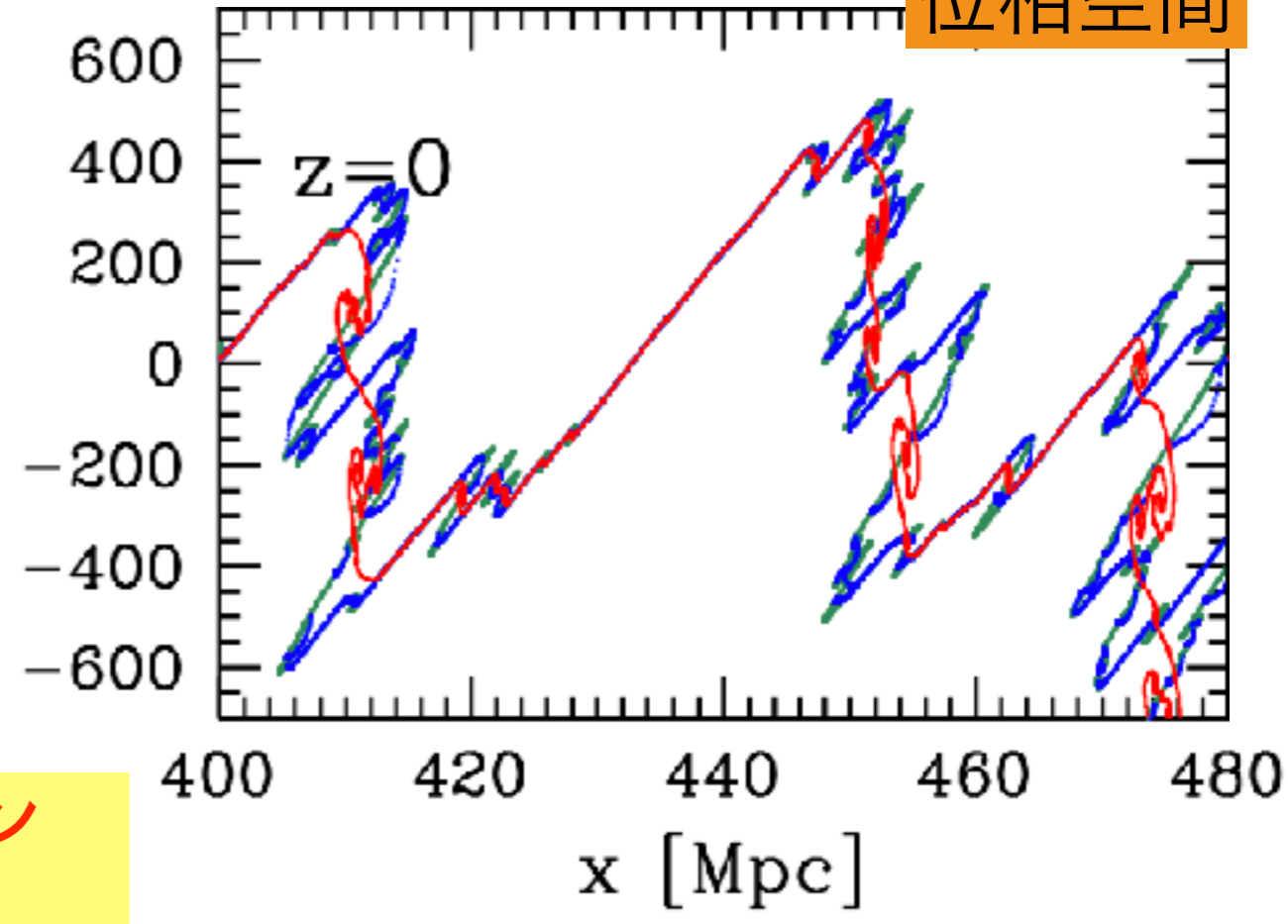


シミュレーション
ゼルドビッチ
ポストコラプス擾動

Planck Λ CDM

$$P_{1D}(k) = \frac{k^2}{2\pi} P_{3D}(k)$$

位相空間



ハロー同士の相互作用の影響大 → 擾動的記述が悪化

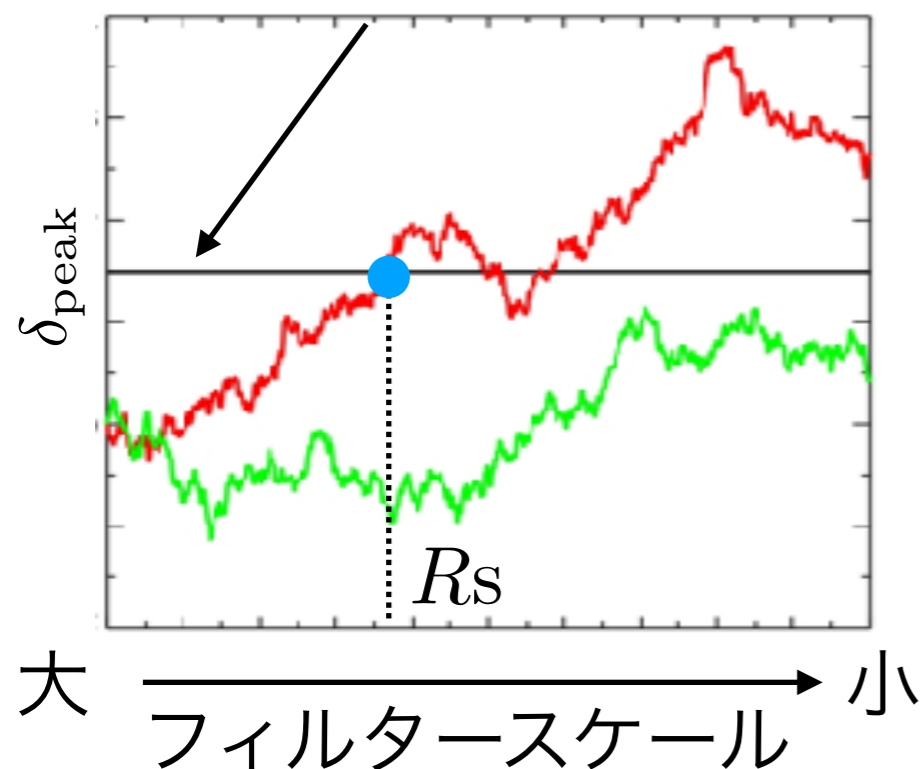
適応ポストコラプス擾動

ハロー個々の構造に興味はない → スムージング

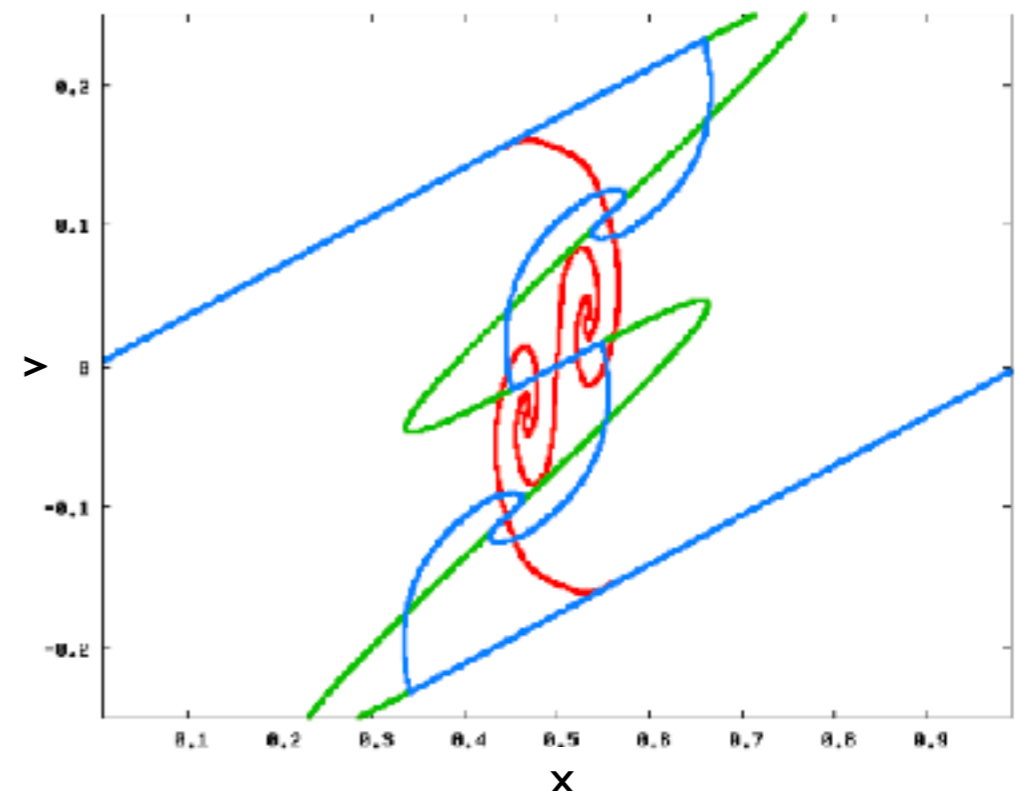
ただし、ハローの成長・合体過程は環境に依存

初期密度ピークに対して「**適応フィルタリング**」

2度目のクロッシング時刻
に対応する臨界密度値



フィルターされた初期密度場を
用いてポストコラプス擾動



適応ポストコラプス擾動

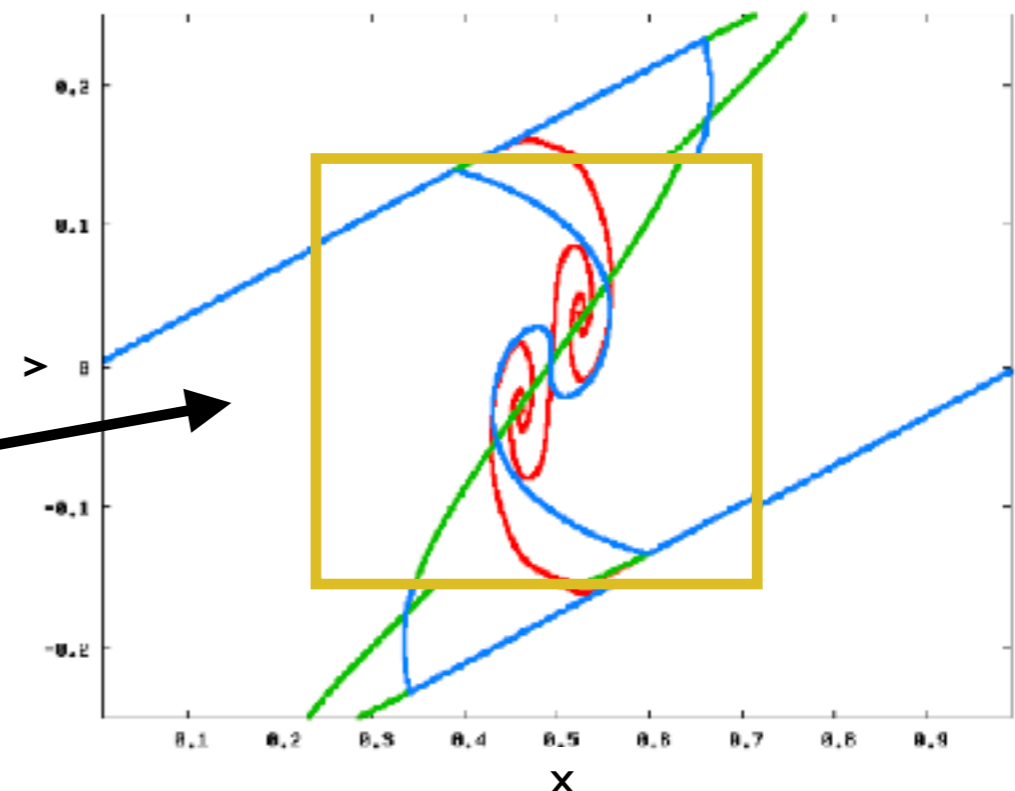
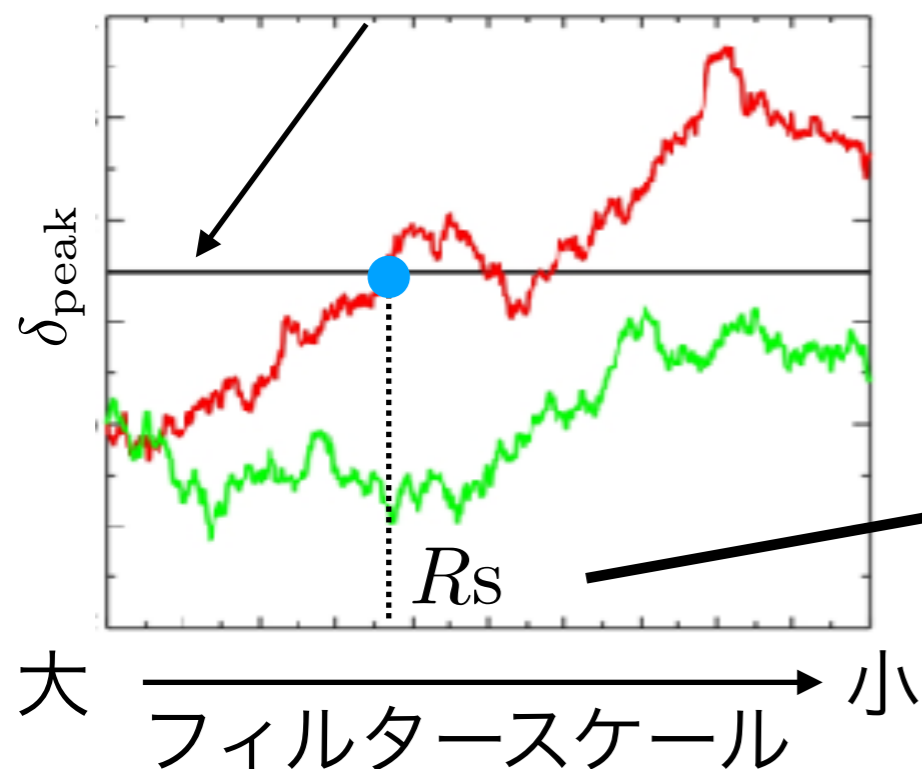
ハロー個々の構造に興味はない → スムージング

ただし、ハローの成長・合体過程は環境に依存

初期密度ピークに対して「**適応フィルタリング**」

2度目のクロッシング時刻
に対応する臨界密度値

フィルターされた初期密度場を
用いてポストコラプス擾動

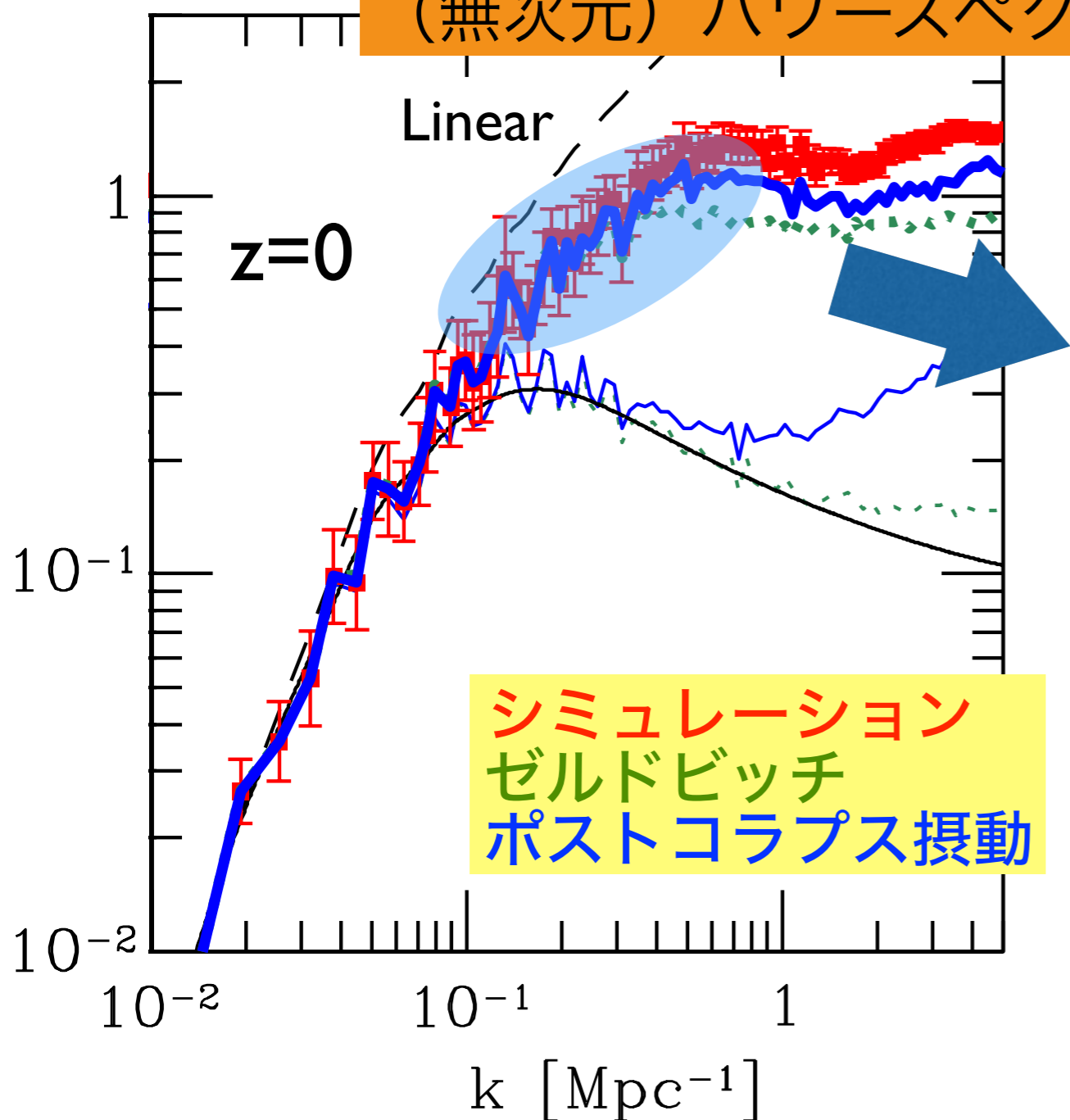


適応

ポストコラプス擾動：CDM的初期条件

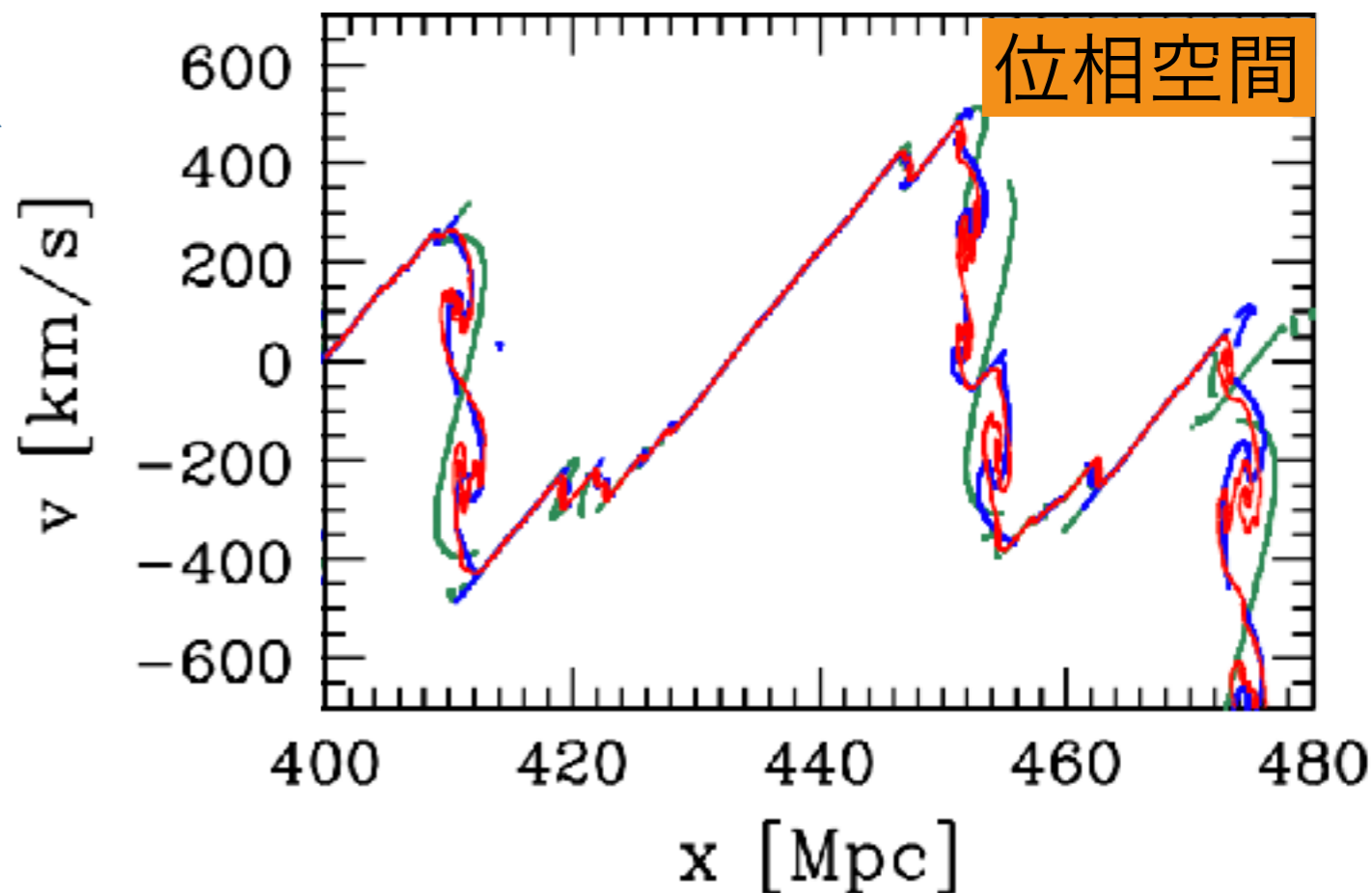
$k P(k) / \pi$

(無次元) パワースペクトル



適応フィルタリング

初期密度ピークに適用
(with filter scales determined
by first-barrier crossing)



AT & Colombi ('17)

考察

シングルストリームを超える取り扱いが摂動計算で可能か？

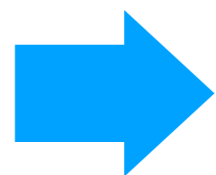
フリーパラメーターなし

ポストコラプス摂動論

マルチストリームのラグランジュ的取り扱い

適応フィルタリング

初期密度ピークに応じたハローの粗視化



3次元にも有効（なはず）

ただし、

3次元ではゼルドビッチ解はあくまで「近似」

シェルクロッシング前の記述も正確にできるか非自明

宇宙論的ヴラソフコードの発展

DIRECT INTEGRATION OF THE COLLISIONLESS BOLTZMANN EQUATION
IN SIX-DIMENSIONAL PHASE SPACE: SELF-GRAVITATING SYSTEMS

2013

KOHI YOSHIKAWA¹, NAOKI YOSHIDA^{2,3}, AND MASAYUKI UMEMURA¹

646

¹ Center for Computational Sciences, University of Tsukuba, 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan; kohji@ccs.tsukuba.

² Department of Physics, The University of Tokyo, Tokyo 113-0033, Japan

³ Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe, The University of Tokyo, Kashiwa, Chiba 277-8583, Japan

An adaptively refined phase-space element method for
cosmological simulations and collisionless dynamics

Cold initial condition

Oliver Hahn^{*1} and Raul E. Angulo^{†2}

¹ Department of Physics, ETH Zurich, CH-8093 Zürich, Switzerland

² Centro de Estudios de Física del Cosmos de Aragón, Plaza San Juan 1, Planta-2, 44001, Teruel, Spain.

2016

CoLDICE: a parallel Vlasov-Poisson solver using moving adaptive simplicial
tessellation

Cold initial condition

Thierry Sousbie^{a,b,c,*}, Stéphane Colombi^a

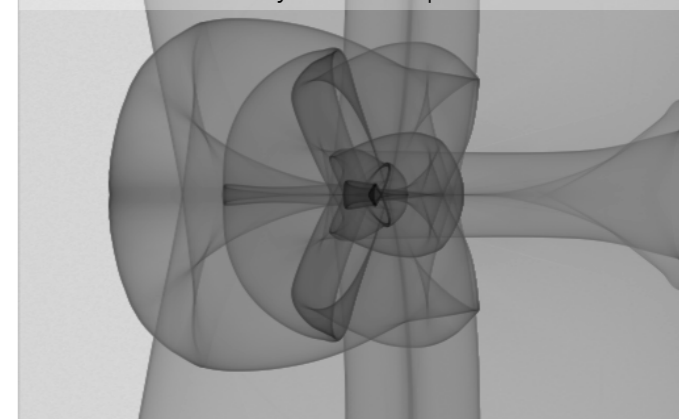
2016

^a Institut d'Astrophysique de Paris, CNRS UMR 7095 and UPMC, 98bis, bd Arago, F-75014 Paris, France

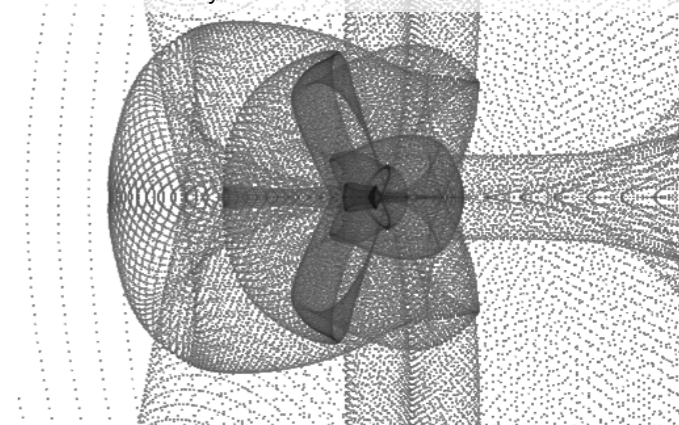
^b Department of Physics, The University of Tokyo, Tokyo 113-0033, Japan

^c Research Center for the Early Universe, School of Science, The University of Tokyo, Tokyo 113-0033, Japan

b. 32^3 + two level dynamic adaptive refinement



c. 512^3 N-body



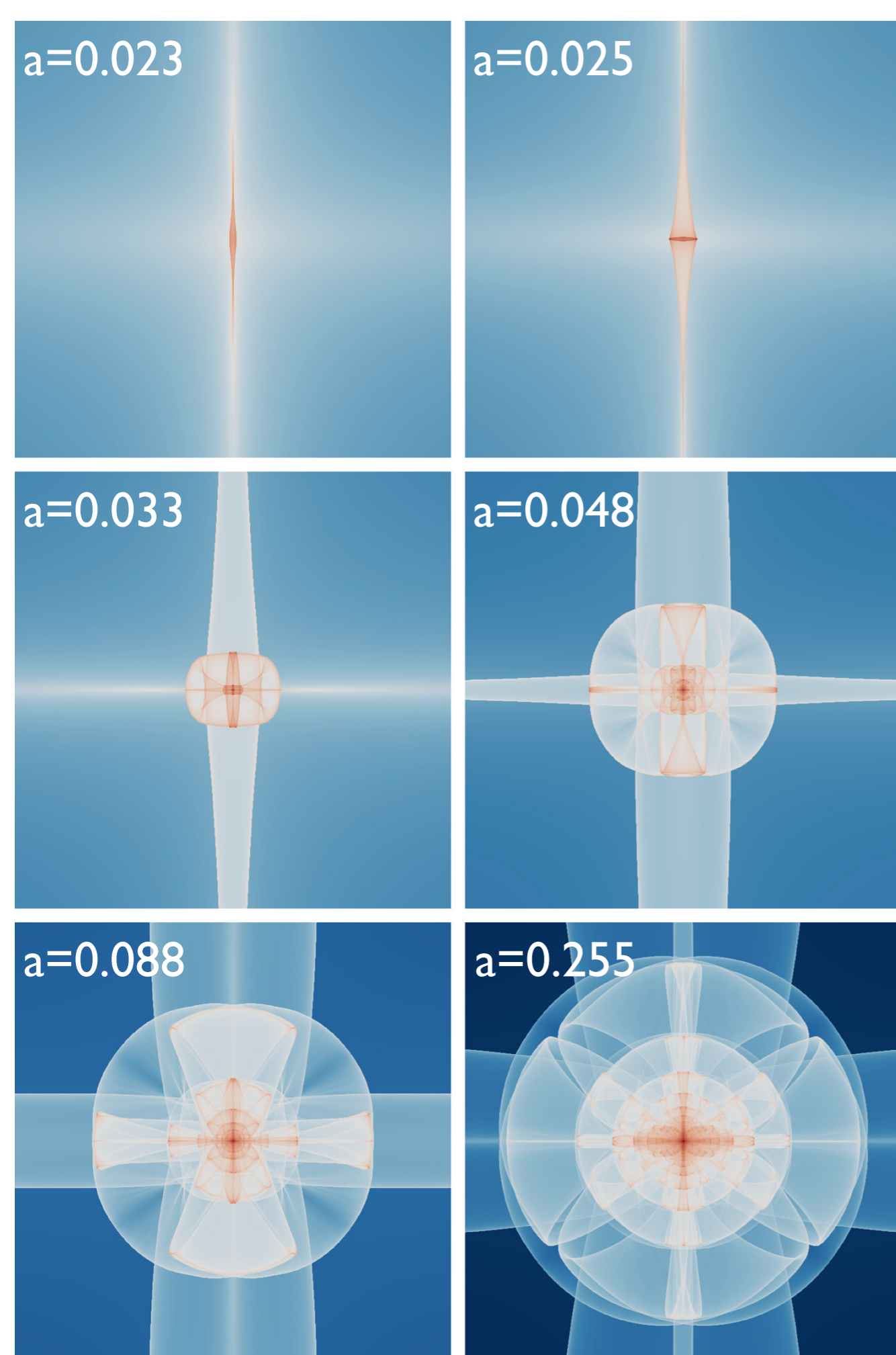
解析計算とシミュレーションの詳細な
比較ができるようになってきた

2D collapse with sine-wave initial condition

Initial displacement @ $a=0.01$:

$$\Psi(\mathbf{q}) = \frac{L}{2\pi} \begin{pmatrix} 0.4 \sin\left(\frac{2\pi}{L} q_x\right) \\ 0.3 \sin\left(\frac{2\pi}{L} q_y\right) \end{pmatrix}$$

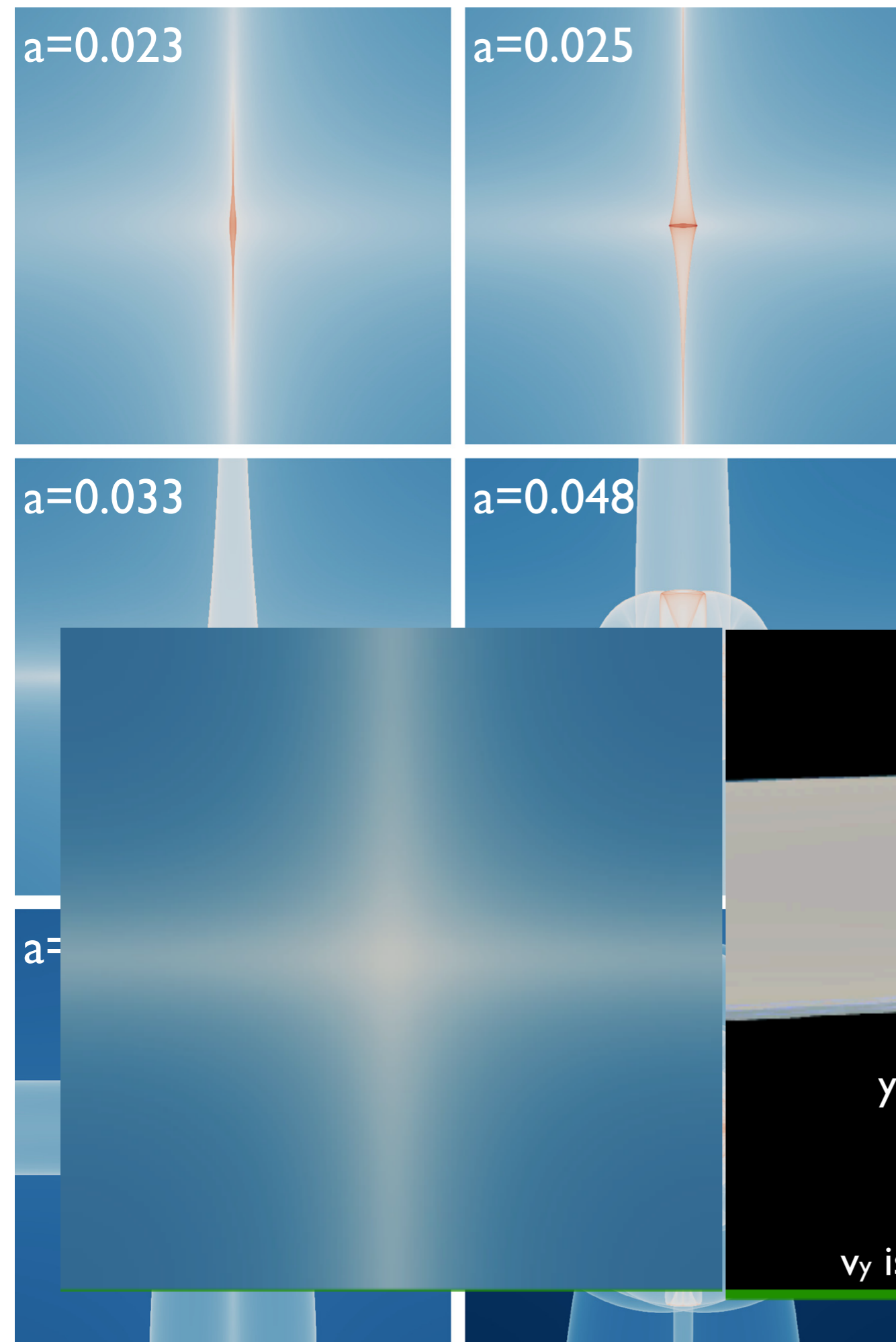
 projected density



2D collapse with sine-wave initial condition

Initial displacement @ $a=0.01$:

$$\Psi(\mathbf{q}) = \frac{L}{2\pi} \begin{pmatrix} 0.4 \sin\left(\frac{2\pi}{L} q_x\right) \\ 0.3 \sin\left(\frac{2\pi}{L} q_y\right) \end{pmatrix}$$



v_y is color coded

3次元セルクロッキングの記述

嵯峨くんの講演

ラグランジュ的摂動論にもとづく記述 (LPT・Q1D)

(e.g., Matsubara '15, Rampf & Frisch '17)

ヴラソフシミュレーションとの比較

(準1次元的コラプス)

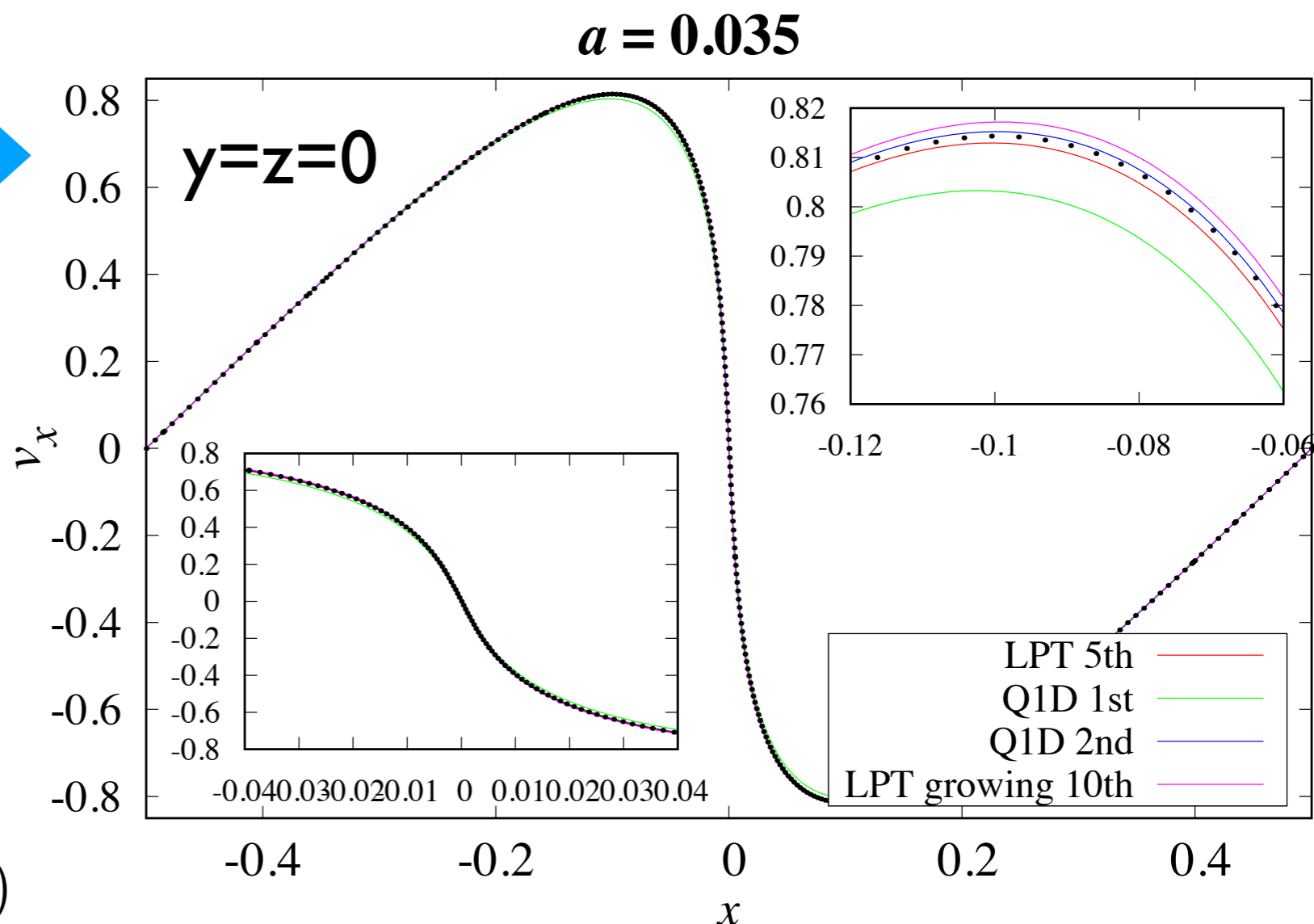
変移ベクトル

$$\Psi(\mathbf{q}) = a_{\text{init}} \begin{pmatrix} \epsilon_x \sin q_x \\ \epsilon_y \sin q_y \\ \epsilon_z \sin q_z \end{pmatrix}$$

パラメーター:

$$a_{\text{init}} = 0.0005$$

$$(\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z) = (-24, -4, -3)$$



3次元セルクロッキングの記述

嵯峨くんの講演

ラグランジュ的摂動論にもとづく記述 (LPT・Q1D)

(e.g., Matsubara '15, Rampf & Frisch '17)

ヴラソフシミュレーションとの比較

(準1次元的コラプス)

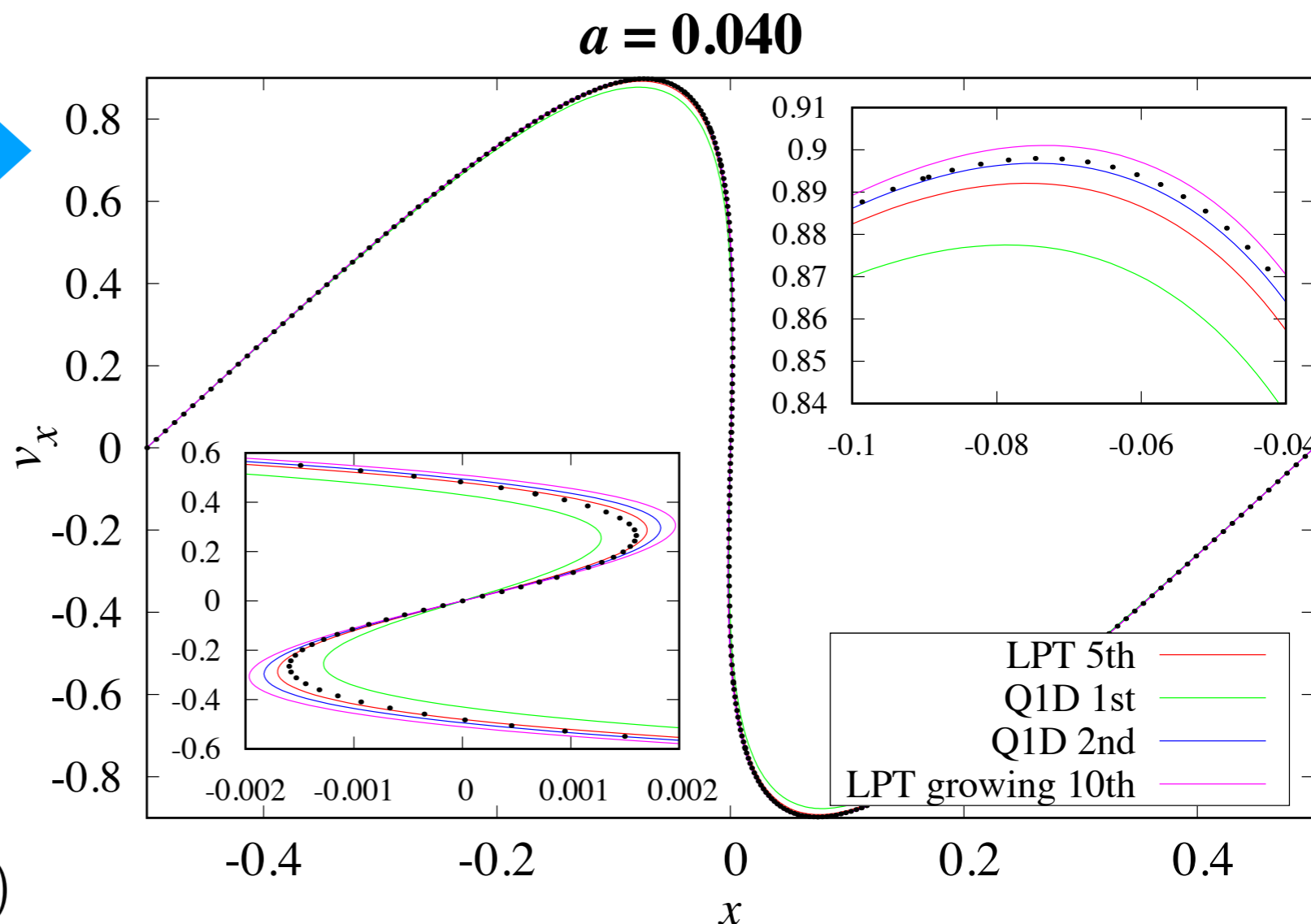
変移ベクトル

$$\Psi(\mathbf{q}) = a_{\text{init}} \begin{pmatrix} \epsilon_x \sin q_x \\ \epsilon_y \sin q_y \\ \epsilon_z \sin q_z \end{pmatrix}$$

パラメーター:

$$a_{\text{init}} = 0.0005$$

$$(\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z) = (-24, -4, -3)$$



3次元セルクロッキングの記述

嵯峨くんの講演

ラグランジュ的摂動論にもとづく記述 (LPT・Q1D)

(e.g., Matsubara '15, Rampf & Frisch '17)

ヴラソフシミュレーションとの比較

(準1次元的コラプス)

変移ベクトル

$$\Psi(\mathbf{q}) = a_{\text{init}} \begin{pmatrix} \epsilon_x \sin q_x \\ \epsilon_y \sin q_y \\ \epsilon_z \sin q_z \end{pmatrix}$$

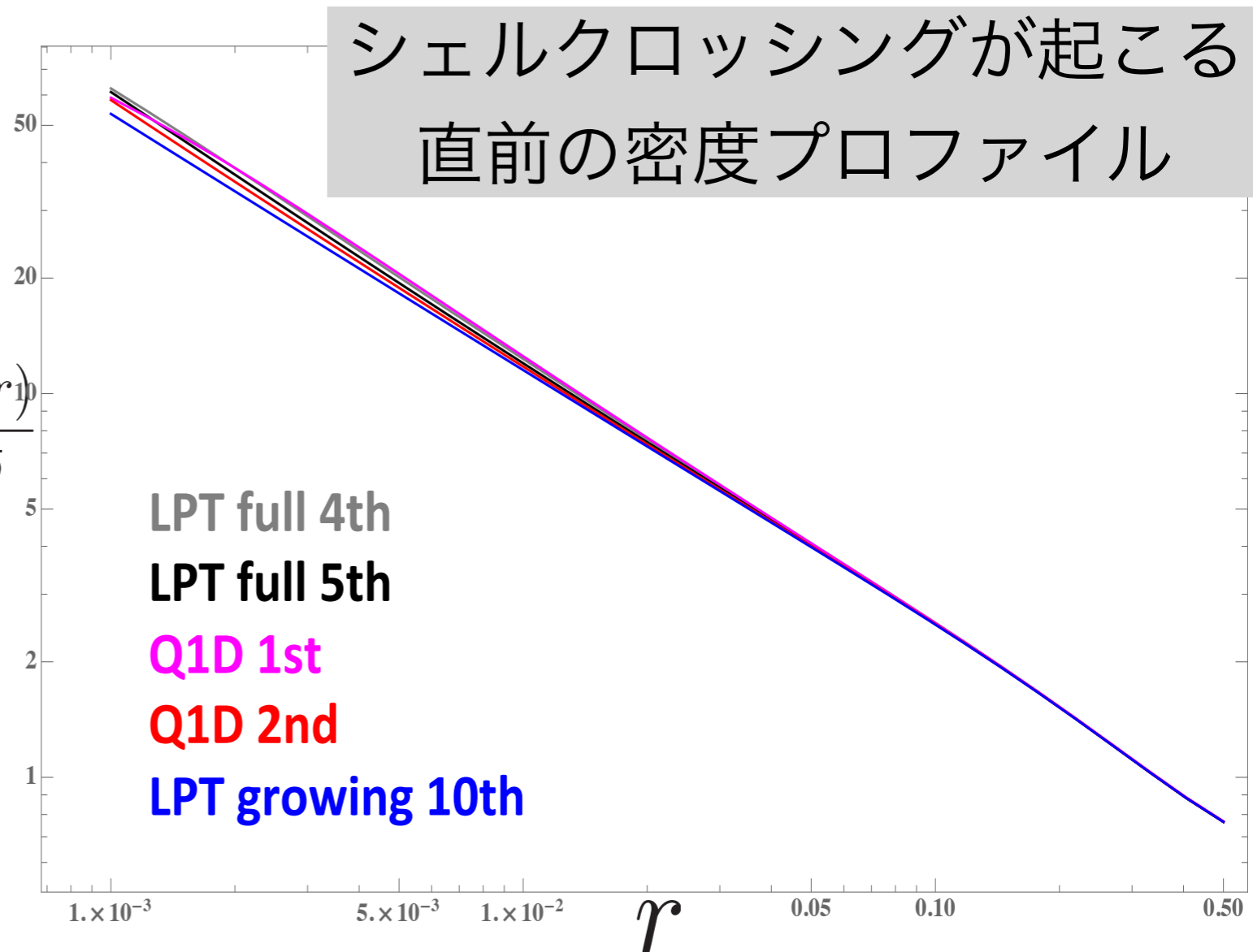
パラメーター:

$$a_{\text{init}} = 0.0005$$

$$(\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z) = (-24, -4, -3)$$



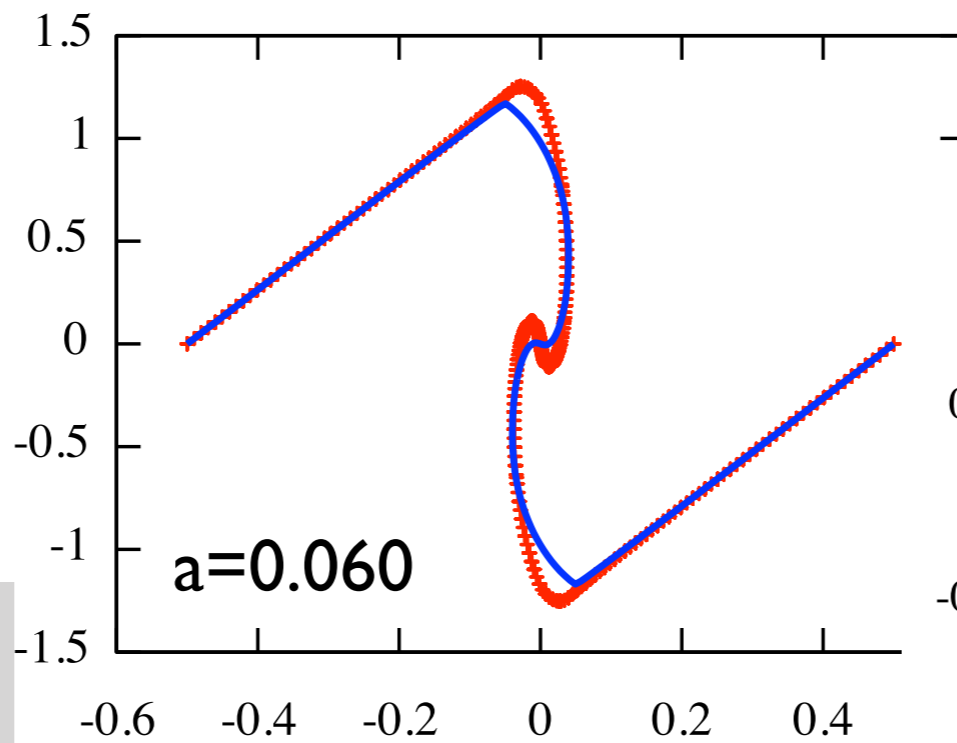
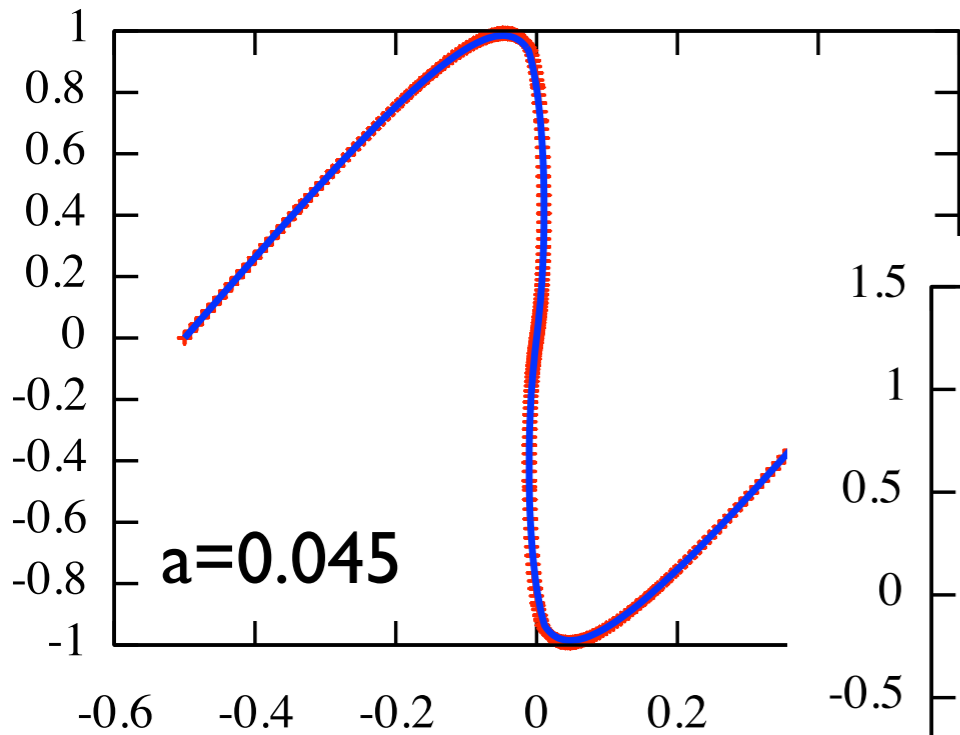
$$\frac{\rho(r_{\perp})}{\bar{\rho}}$$



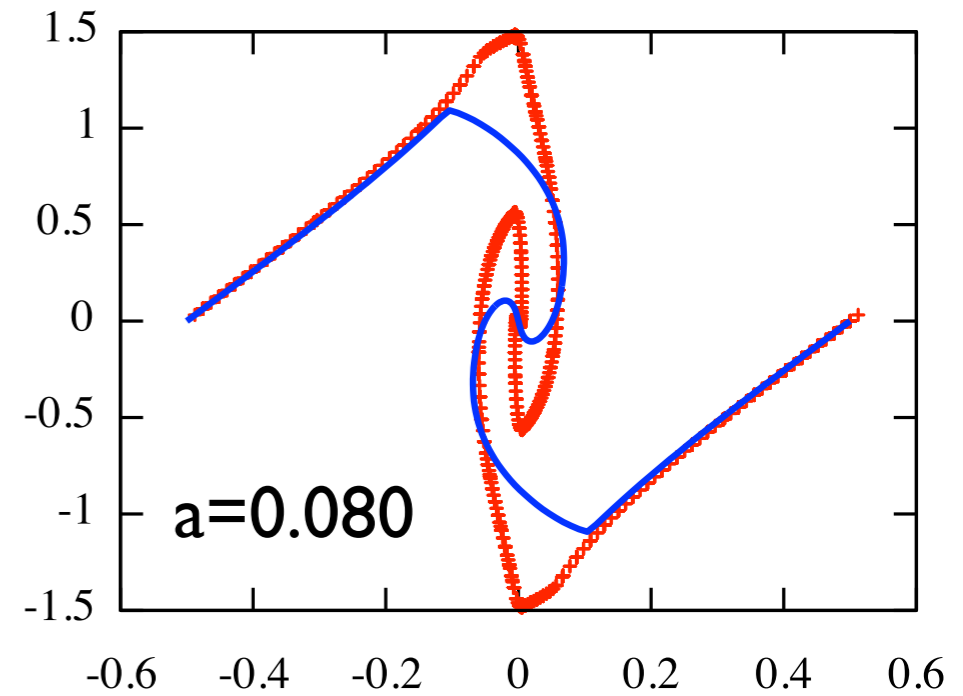
3次元シェルクロッキング後

シェルクロッキング後の1次元ポストコラプス擾動論と比較

(2次のQIDに対する力の反作用を求めた)



ヴラソフシミュレーション
ポストコラプス擾動



パラメーター：

$$a_{\text{init}} = 0.0005$$

$$(\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z) = (-24, -4, -3)$$

準一次元的なコラプスでも、2度目以降のシェルクロッキングが早まり、1次元の擾動計算とずれる (多次元の効果)

まとめ

シングルストリーム近似にもとづく従来の計算手法を
こえる大規模構造の摂動論の開発・発展

シングルストリーム近似にもとづく摂動計算の問題点
————→ 高次摂動で破綻

シェルクロッシングを超える（1次元）：

- **ポストコラプス摂動論**

マルチストリームのラグランジュ的取り扱い

- **適応フィルタリング**

初期密度ピークに応じたハローの粗視化

3次元への拡張に向けた研究も進展中 → 嵯峨くんの講演